



社会福祉法人

せたがや櫛の木会

機関誌第7号

2010.4 発行

「地域法人」として目指すこと

理事長 鈴木 昭雄

せたがや櫛の木会（以下「当法人」と言います。）の平成21年度最大の出来事は、「わくわく祖師谷」の開設です。この事業は、大原など四作業所の伝統を発展的に受け継ぎ、千歳台・下馬での経験を加味しながら、初めて手掛けることとなった「多機能型自主事業」の在り方を探求するという責務を負っています。そのため、堀田施設長以下の全職員が、文字通り「一所懸命」になって事業運営にあたっているところです。

11月から利用者の通所が始まって、知的障害者が地域で普通に生活していく上でのさまざまな課題に改めて気付かされました。在宅生活が長く「施設への通所」が難しい人、作業その他の「所内活動への参加」に抵抗感がある人、はたまた、「愛の手帳を取得」する手伝いから始めなければならない人など、本来のサービスマネジメントには収まりきれない利用者支援に翻弄される日々が続いたようです。ここ十数年、日中活動系を中心にサービスマネジメントの充実が大いに図られてきていると考えます

が、このような祖師谷の実情を見て、公的な福祉サービスを十分に利用しているとは言えない人たちがいるなど、サービスの利用面での課題が多く残されているように思います。本人や親の高齢化が一段と進む中で、事態はますます深刻になってくることでしょう。知的障害者の自立生活を地域で支えていくためには、社会的なサービスマネジメント（社会資源）の充実と併せて、その利用促進（アクセスの改善）の仕組み作りやその運営方法の整備が急務となっているものと考えます。

当会は、専ら世田谷区内を事業領域としている「地域法人」です。そのサービスマネジメントは世田谷区民たる知的障害者ですし、経営を担う役員等の多くは長らく世田谷区の福祉と関わってきた人たちです。平成14年の事業開始以来、主として日中活動系と訪問系のサービスマネジメントの拡大と充実を図ってきました。同様な努力はこれからも続けて行くつもりです。その一方で、前述したような「祖師谷の実情」に鑑み、改めて「地域法人としての使命」——さまざまなニーズを持った知的障害者が、住みなれた地域で生活し続けていけるように支援していくこと——に思いを致すと、「一人ひとりのニーズ」を、

福祉や社会参加等に関する「地域の社会資源」（フォーマル・サービス・インフォーマル・サポート）を問わすに結び付けていく役割を果たしていくことが、これからの当会に強く求められてくるのではないかと考えられます。

具体的なイメージとしては、例えば、新しい「地域生活支援センター事業」（仮称）——「相談支援事業」と「ケアマネジメント事業」とを一体的に組み合わせ、それに、「日常生活支援事業」（権利擁護事業）と旧・民営福祉作業所などで培われてきた「インフォーマル・サポートの経験」などを加味して事業化を図るもの——を構想してみることが考えられます。また、このような事業が円滑に実施されるようになれば、サービスマネジメントの支援や社会資源の修正・開発にも貢献することが期待できるでしょう。

当会には、「社会福祉士」の資格を持つている職員が何人かいます。彼らを主なメンバーとする「新事業検討会」を法人内に設け、「事業構想の立案」と「そのフィージビリティスタディ」（実行可能性の研究）を試みてみたいと考えているところです。

特集

「わくわく旋風!!」

わくわく祖師谷 堀田和子施設長

平成20年春、世田谷区は砧保健センター跡に新しい障害者施設開所の方針を打ち出しました。それを受けて檜の木会ではさっそく砧プロジェクトを発足、プロポーザルの準備に入りました。そして12月のプレゼンテーションを経て21年春に指定を受け11月2日、15名の利用者を迎え、地域の方々や福祉関係の方々をご招待して和やかな開所式を行いました。利用者の方を中心にした作りを心がけ、わくわくのパンを主食にキタミクリーンファームの野菜、ショップ喜多見から川場村のソーセージ、パイ焼きがまのアップルパイ、大原福作の生キャラメルクリーム、喫茶JOYにも出張していただき、おみやげは法人内の自主製商品の詰め合わせと身近で力ジュアルでわくわく祖師谷らしさをアピールした式となりました。

一方、ハード面においては知的障害者対象の生活介護と就労継続B型の多機能型民営事業所の新規開設は世田谷区はもちろん東京都でも初めてのケースで申請時は都とのやりとりに時間がかかり、開所にやっと間に合ったという経緯がありました。また、設備面においても建物自体は変えていないので段差や不具合があり、開所してからも工事が入るなど落ち着かない状態が続きました。さらに経営面については準備室の資金や人件費、消耗品の購入に苦労しましたが、法人の資金をつなぎ資金として運営しています。民営4所の法人化の時と同じように法人の存在を頼もしく感じました。

利用者支援の面では、施設間異動の方は環境の変化による緊張が見られたり、在宅の方は通うことへの不安が見られ、職員はケースの把握のため前施設での情報収集やご本人、ご家族、ドクター、ケースワーカー等との面談をきめ細かく行ないました。ケース把握では「生活支援ノート」があれば…と思うことが多々ありました。今後の作成に期待しています。また、ケースワーカーも含めた個別支援会議を行ない、一人一人のストレングスに着目する個別支援計画を作成、実施しています。朝、連絡のない方については電話で確認したり、訪問したり、ワーカーやご兄弟に連絡します。ご家族とも頻りに話し合いを行なっていきます。一人暮らしの方々への支援は生活全般に涉り、インフォーマルな支援も必要です。今後、ホームヘルプや社会福祉協議会のふれあいサービスや地域の社会資源（人、物、設備等）を利用する方向も考えていきます。今回ワーカーが重要な役割を担っているケースが多く、日常的に連絡が必要な中、砧地区は福祉課が近いのでワーカーがパンを買いに来られ毎日のように情報交換・連携を取っているのが心強いです。

このような試行錯誤の中、年が明けてから、徐々に利用者の方も緊張が解け安心して過ごされるようになり、当初なかなか通えなかった方も少しずつ通えるようになり、今さらながらに利用者の方々のエンパワメントに驚いています。「ここに通いたい」と思える施設を目指し職員一同努力していきたいと思えます。現在は17名と利用者が増え、さらに4月から29名となる予定です。パンの製造、販売も順調に伸びていて、砧総合支所の1階テラスでリヤカーを改造した販売車でパンを売るといふ、夢が膨らむ計画が進んでいます。

わくわく旋風、当分続きそうです。わくわくする気持ちで明日を迎えたいと思います。



「千歳台福祉園行事

「新成人おめでとう」を開催して」

千歳台福祉園 小島施設長

新しい年を向かえまだまだ正月気分が残る1月7日、毎年恒例となつてい
る成人式&新年会を開催いたしました。
今年度から元号が平成と改められ
た世代の方が成人を向かえ、福祉園で
はお一人の方が新成人の仲間入りとな
りました。当日は背広に身を包み颯爽
と大人の面持ちで式に参加されまし
た。来賓の方々より、心温まる祝辞を
頂きご本人も若干緊張気味でした。

毎年記念の演奏として華を添えて頂
いているミュージシャン「かのんぶ」
による「母に捧げる歌、私を生んでく
れてありがとう」の演奏を聴き、感動、
感激の涙が会場にあふれました。
また、幼い頃から、最近の様子まで
スクリーンに映し出された写真を、お
母様がその写真に合わせ、楽しかった
こと、辛かったことを思い出しながら
の紹介、慈しみ、大切に育てた20年の
思い出を参加された方々が自分のこと
のように心に深く感動をいただきました。
た。

今年度新成人を迎えられた方はお一
人でしたが最後まで主役として振る舞
い、祝辞、歌、思い出の紹介、参加さ
れた全員がそれぞれに感動を共有した
素晴らしい成人式でした。

「下馬福祉工房といえは…」

下馬福祉工房 村瀬施設長

なにはともあれ「しもまるくん」。
おかげ様で売り上げ5万枚、達成しま
した。皆様の応援を得て「しもまるく
んファミリーサブレ」として和やかに
売り出し中です。しもまるパパ、しも
まるくんの妹、しもまるママとファミ
リーが勢ぞろい。ママは南米系のイ
メージ、するとしもまるくんはハーフ。
両親はどこで知り合ったの…。いろん
なストーリーが生まれそうな顔立ちとご
対面ください。

2つ目は、外部の方々との交流の活
発さ。日常のボランティア、学生の出
入り、各団体との交流会、見学・研修・
体験生の受け入れ、一つのつながりが
次のつながりへ広がっています。
3つ目は、…、すいません。紙面
オーバー、続きは次の機会に。

「初めて第三者評価を受審して」

大原福祉作業所 佐藤所長

大原は平成20年4月に法内化し、そ
の年の秋に東京都の監査がありまし
た。21年度は区の要請により第三者評
価を受審することになりました。所長
のわくわく祖師谷への異動と時期が重
なり不安の中での調査が始まりまし

た。

調査は、利用者の方の聞き取りや支
援の内容を中心に行ないました。日常
の支援内容だけではなく、調査員が出
向き外出やイベント時の支援、大南理
事を招いてのケース会議を傍聴するな
ど突っ込んだ調査を行い、「大原の良
さ」と「もっとこうしたら…」の両面
を提案する方向で行なわれました。3
月には評価が出るので、それを受け止
め、参考にしながら、職員のチームワ
ークを大切にによりよい大原を目指して
きたいと思えます。

「共同受注で不況を乗り越える！」

上町福祉作業所 北川所長

社会情勢の影響は否応無く作業所の
活動に跳ね返ってくる。それを改めて
実感する一年となりました。
生産（作業）活動を日々の中心に据
えている作業所にとって、長く続く不
況は大きな打撃です。取引のある企業
からの受注が軒並み減少、あるいは全
く無くなったり…特に春先から夏頃
にかけては活動内容の構成に苦慮しま
した。

秋を迎える頃には企業からの発注も
安定し、活動内容に悩むことも無くな
りました。それまでの間で非常に助け
られたのは、他事業所から作業を提供

してもらったことでした。

安定している現状が今後も継続して
いくという確証はありません。単独で
の努力は勿論、事業所間での受発注、
複数の事業所による共同受注等、受注
開拓を推し進めていけるように出来れ
ばと考えています。

「たまにはいっしょに」

喜多見福祉作業所 川名所長

常に仕事に追われる喜多見に珍しく
余裕の数日間が…そんな時は小回り
のきく小規模の良さを生かし、思いっ
きり遊んでしまうのが喜多見流！まず
は「氷川神社の豆まき」で子どもたち
と一緒に天狗や鬼の行列に固唾を飲
み、次は「バレンタインクッキー作り」
で、この時とばかり自由に型抜き、お
世話になってる人にプレゼントをと
目を輝かせる。そして恒例の「ひとり
一役カレー」は、鮮やかなチームプ
レーで作ったおいしい定番カレーをい
そいそとご近所におすそ分け。やっぱ
り作業所の仲間と一緒に何をやって
も楽しい。この雰囲気を作業所の外に
まで広げられたらと思う。とにかくみ
んなリフレッシュ！また仕事がんばり
ます。

「法定事業所として2年目を迎えて」

用賀福祉作業所 山井所長

新事業体系「就労継続支援B型」に移行して2年目を迎え、前年度の支援状況を総括し、新たな個別支援計画を作成して臨んでおります。個々の利用者の作業面での課題を明確にすると共に生活面においては生活能力の維持・向上を図ることに主眼を置きつつ、ご家族の意向にも配慮した支援サービスを提供するよう努めていくことが今後にも重要になると考えております。

また、昨今の不況による影響で、受託作業の受注量が激減し、利用者に提供する作業や工賃の減少が懸念されましたが、他事業所からの紹介等で新規作業の受注ができました。

これからも、いろいろな面で協力体制の充実・強化に取り組んでいきたいと考えています。

「ヘルパーを利用して社会参加を！」

ヘルパーテーション 榎の木 島澤管理者

平成20年から世田谷区内で月に利用できる移動支援の時間数が30時間になりました。利用者さんにしてみれば、社会参加をする機会が増えたことになりましたが、当時それに応えられる事業所数やヘルパーは年々減少してしましました。移動支援制度を『絵に描いた餅』にしない為、区に対し区が主体となつてヘルパーを養成するよう求め続けた結果、平成21年度から予算が設けられ

養成研修事業がスタートしました。平成21年度ヘルパーテーション榎の木は区から事業委託を受け、ガイドヘルパーの養成研修事業を4回開講し、新たに76名のヘルパーを養成しました。この76名は、区内で活動することを条件に研修を受講しており、区内各事業所でヘルパーとして活動しています。区内で活動するヘルパーは確実に増えています。皆さんもヘルパーを利用して社会参加を積極的に行って頂きたいと思えます。

「未就学児クラスの活動」

プレイ&リズム希望丘 三浦管理者

水曜日と土曜日の午前中に展開している未就学児クラスでは、リトミックを中心とした様々な活動を5〜7人のお子様たちで展開しています。プレイ&リズムでのリトミックは短い活動時間の中でもお子様たちが楽しめるように、ピアノのリズムに合わせて色々な楽器を鳴らしたり、手遊び唄で体を動かしたり、パネルシアターを用いたお話を聞いたりなどのプログラムを展開しています。

平成22年度においても、大きい集団の前に小さな集団を経験させたい、保育園・幼稚園とは違ったお友達との関わりをもたせたい、という保護者からの要望に応え、お子様たちが伸び伸びと活動できるよう支援していききたいと考えています。

世田谷区手をつなぐ親の会

知的障害者の権利を守り、教育と福祉の充実を目指し活動しています。ホームページをご覧ください。お問い合わせは下記まで。

事務所 世田谷区世田谷 3-17-7-308
TEL 03-3706-0067 FAX 03-3706-0246
URL: <http://oyanokai-setagaya.com>

本部 下記の方々から貴重なご寄附をいただきました。深く感謝申し上げます。

ご寄付者氏名・団体	金額
世田谷区手をつなぐ親の会 様	300,000
かしの木 友の会 様	700,000
東京都共同募金会 様	900,000
他	120,000
合 計	2,020,000

榎の木会後援会

「かしの木友の会」
にご加入おねがいします

日頃より「榎の木会」をご支援くださりまして、ありがとうございます。

「かしの木友の会」にお入りいただき、一層のお力添えを頂きたく、お願い申し上げます。

会費	個人会員	一口 2,000円から
	団体会員	一口 10,000円から
郵便振替口座		00130-2-667003 (かしの木友の会)

編集発行 社会福祉法人 せたがや榎の木会 〒155-0033 世田谷区代田1-29-5

TEL 03-5481-1010 FAX 03-5787-4051

E-mail setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp

URL <http://kashinokikai.net>